仙台二中　防災だより

第11号

令和５年度　第１１号
令和６年１月１７日発行

発行者　防災主任

年が明けてすぐの元日夕方に石川県の能登半島を震源とする最大震度7，マグニチュード7．6の大きな地震が発生したことに驚きを隠せなかった方が多いと思います。調べてみると，地震規模の大きさの違いは，阪神・淡路大震災の約3～4倍だったそうです。昼夜を問わず幾度となく揺れが襲う余震の発生は，13 年前の東日本大震災を彷彿とさせるものでした。発生から 2 週間経った現時点で明らかになっている主な特徴は，以下の3点です。

①地震発生後に日本海沿岸一帯で短時間に襲来し，何度も押し寄せてきたこと。
②地震動による建物の損壊や倒壊以外に火災が至る所で発生し，燃え広がったこと。
③山間部や沿岸部で土砂崩れなどの土砂災害が多く発生し道路が寸断したことで，救助や支援活動が行き渡らない地域や遅れた地域があること。

阪神・淡路大震災から29年

29年前の1995年1月17日午前5時46分ごろにマグニチュード 7.3の直下型巨大地震が発生し，兵庫県神戸市や淡路島を中心に襲いました。死者は約 6,500 人，負傷者4万人超，約64万棟の建物が被災し，死因の多くは建物の倒壊による圧死でした。左 2 枚は被害の様子（神戸市提供写真），右 2 枚は淡路島野島断層とメリケンパークで撮影した震災遺構の写真です。

阪神・淡路大震災が発生した際，多くのボランティアが駆けつけ活動にあたりました。そのことから，この年は「ボランティア元年」とも言われています。これを踏まえ，国では災害時のボランティア活動・自主的な防災活動への認識を深め，災害への備えの充実を図ることを目的に，毎年1月17日を「防災とボランティアの日」に，1月15日から21日までを「防災とボランティア週間」にそれぞれ制定されています。

「防災とボランティアの日」を機会に，地震の備えとして皆さんに知っていただきたい「北海道・三陸沖地震注意情報」を紹介します。北海道から千葉県にかけての太平洋沿岸でマグニチュード 7.0 以上の大地震が起きたら，続けて発生する巨大地震の可能性があり得ることを知らせるものです。この注意情報が発表された場合は，広い範囲で想定される甚大な被害に対し，1週間程度の備えの再確認や迅速な避難ができるように御家庭での準備をお願いします。実は運用が始まって1年経ったもののまだ知らない方が多いようで，政府がマンガを作成しています。右下の QR コードを読み取ると見ることができますので，機会を見つけて御一読していただき，地震発生時における家族の取り決めの再確認や話し合ってみてはいかがでしょうか？　また，非常持ち出し品の確認と季節に応じた中身の入れ替えを行い，改めて日ごろの備えの重要性を再認識する期間にしていただければと存じます。